

近畿大学工学部 教職課程年報

2022

Vol. 9

■ 研究ノート	
田中 広志：数学科目でのゼミ形式講義の効果	3
■ 体験記	
合格体験記 佐古 智香／渡邊 真理子	11
教育実習報告 渡邊 真理子／大西 芽衣／相原 未来	16
■ 資料	
1. 令和3年度教職課程行事報告	21
2. 令和3年度教職課程受講者数	22
3. 令和3年度教育実習・介護等体験参加者数	23
4. 令和3年度免許取得者数・教員就職者数	24
■ お知らせ	
教職ラボ同好会(近畿大学工学部教職サークル)	27

研究ノート

数学科目でのゼミ形式講義の効果

田中 広志†

The Effectiveness of Seminar Style Lectures in Mathematics

Hiroshi TANAKA

教科及び教科の指導法に関する科目に配置されている解析学Ⅱの講義を2017年度よりゼミ形式で行っている。本論文では、このゼミ形式の講義の効果について学生へのアンケート調査をもとに考察する。

1. ゼミ形式の講義導入の経緯

近畿大学工学部では、数学教員の免許は電子情報工学科およびロボティクス学科の学生が取得可能となっている。ただし、他学科の学生が他学科履修制度を使い、免許状取得のための数学に関する教職科目を履修し、卒業時に数学教員の免許を取得することも可能となっている。解析学Ⅱは数学教員の免許取得の上で、教科及び教科の指導法に関する科目に配置されていて、選択科目となっている。対象者は2年生で後期科目として配置されている。

解析学Ⅱの講義において2016年以前は、著者による通常の一斉形式の講義を行っていた。しかしながら、例えば文部科学省においては、[1]で中央教育審議会が2012年8月に大学教育の質的転換に向けてアクティブ・ラーニング型講義に関する答申をしている。また同じく文部科学省は[2]で2014年11月に、初等中等教育に対してもアクティブ・ラーニング型講義に関して中央教育審議会に諮問している。さらに、解析学Ⅱの履修者の人数は2017年度は5人、2018年度は5人、2019年度は3人となっていて、少人数の履修者となっている。そのような状況および少人数の履修者であることを鑑みて、解析学Ⅱにゼミ形式の講義を2017年度から導入することを決めた。ゼミ形式の講義については、大学数学科の講義で通常に行われているものを踏襲している。例えば[3]において、ゼミ形式の講義の指導およびその教育効果について次のようにまとめられている。

「多くの大学での数学科において行われている、いわゆる「ゼミ」とは、少人数グループによるテキストの輪読、つまり、学生の発表とそれに関する質疑と討論を主体とする講演を意味する。個人指導に近い形態であること、また専門教育に関する深い議論がなされうることから、高い教育効果が得られる指導形態であることは、多くの大学教員が認めるところである。」

†近畿大学工学部教育推進センター

Center for the Advancement of Higher Education
Faculty of Engineering, Kindai University

著者も大学の学生時代に同様のゼミ形式の講義で当時のゼミ生の仲間や指導教員に説明していた。その体験時に、他者に説明することで数学の理解が本質的に深まることを感じていたので、それをこの講義に導入したというのが経緯である。テキストは『複素解析』（矢野健太郎，裳華房，1995）を使用している。各日に発表者は1人が原則であるが、2018年度のみ最初の登録時の履修者が多かったため、各日に2人ずつ発表をしてもらった。ただしその後早い段階で履修者が減ったため、各日に1人の発表になった。次回の講義時に発表をする学生は、事前に該当部分を熟読し、板書計画を立てるよう指導している。そして、当日の講義時には事前に熟読していた部分を他の学生に説明する。当日までに理解できなかった部分については、当日に学生同士でディスカッションをして解決を目指す。ただし、学生同士では解決できない部分については著者が適宜助言をする。またそれ以外にも適宜、著者からテキストの内容に関して質問を投げかけ、学生の理解が深まるように気を付けている。

この論文では、ゼミ形式の講義に対する2017年度から2019年度までの学生のアンケート結果を通して、その効果について検証を行ったものである。

2. アンケート調査

アンケート調査は最後の講義時に、無記名の自由記述式で4項目に関して調査を行った。その際、無記名であるため成績評価には含まれないことを事前に学生に知らせた。ただし、自主的に記名してくれた学生もいた。アンケート内容と学生の回答は表1に記載した。なお学生の回答は各設問項目に関して、各年度に2名分を記載した。履修人数が少ないことから学生個人が特定されないように4項目すべてに一人の学生の回答が記載されないような配慮を行った。

このアンケート結果から、ゼミ形式の講義はおおむね好評であることが分かった。学生自身が発表することで、教員を目指す学生が普段の講義をどのように行うべきかについて学べたことが良かった点として挙げられていた。また今までなんとなく数学を理解していた学生が、他の学生からの質問に答えられないことを通して、今までの理解がいかにも不十分であるかということを実感してくれた。その他、他の学生と一緒にディスカッションすることで楽しい講義だと思ってもらえた。これらのことを目的としてゼミ形式の講義を取り入れたので、そのようなアンケート結果が得られたことでゼミ形式の講義の効果が確認できた。

表1 アンケート結果

- | |
|--|
| <p>1. 自分の発表を通して感じたこと・気づいたことを書いてください。
(学生回答)</p> <ul style="list-style-type: none">● 数学的に理解しておくことの大切さ。現場で質問されたときに、何でも応えられるようにならなければならないため。それぞれ教え方や手順が十人十色であること。決まった教え方や手順だけではなく、それぞれ大切だと思うところを工夫する必要がある |
|--|

ると感じた。(2017年度)

- 数Ⅲの分野をわかりやすく教えることの難しさ. そもそもの教科書の解説の大変さ. どのような言い回しにしたら記憶に残りやすいのかを考えることの難しさ. 普段なにげなく聞いている授業が先生の努力の上に性質していることを実感. 教えて理解してもらおうことの喜び. 先生としてまちがったことを言えないプレッシャー. (2017年度)
- 自信がなかったり不安な所があるとすこし話すペースが上がったり声が小さくなってしまうので, 事前にどこまで自分が理解できているかをメタ認知するのが大切だと感じた. (2018年度)
- 発表までに理解を完全にできていることが少なく, 質問された時にしっかり答えることができないことが多かった. (2018年度)
- 教科書で少ししか取り扱われていない内容でも調べる必要があると思いました. (2019年度)
- 目的が違ふと注意することが違ふなと感じた. 0からはじめると自分が理解していると思っけていても実は理解できていなかったりしていることがよくあった. (2019年度)

2. 他の人の発表を通して感じたこと・気づいたことを書いてください.

(学生回答)

- いかにかわりやすく説明するかで, 教科書通りに進めるのではなく図を描いたり, 先生にわからない所を聞くなどして, 前準備と知識を自身のものにしていた人がいたのですごいと感じた. (2017年度)
- 人それぞれ様々な教え方があること. 自分だったら, こう言うなあーとか考えるのは楽しかった. 板書のとり方の工夫など, 人の良い所を吸収できた. (2017年度)
- 色々な説明の仕方があり, 人の説明の仕方への選択が増えたと思う. (2018年度)
- 自分が解くように前に書いただけでは伝わらない. とぼして書いている人がいて, 分からなかったときがあった. (2018年度)
- 自分が授業を受けたことがあるから上手に説明できるのであって, 始めてのものを自分の言葉で説明するのは難しいなと感じた. (2019年度)
- 忘れてしまっていた公式などの知識があったことに気づいた. 導出過程の重要性. (2019年度)

3. 数学の説明, 問題, 授業について感じたこと・気づいたことを書いてください.

(学生回答)

- 今までなんとなくで理解していたこともあってか, 準備はとても苦労した. 一から十

までしっかりと知っていなければ、そもそも授業として成立しないので、「理解」の方面にほとんどの時間を使い、授業の工夫が足りなかったのではと反省している。もっと余裕を持てるように今までの内容を復習しておきたい。(2017年度)

- 自分が疑問に思わなかったところでも、生徒からの質問が来ることがあるため、授業内容だけでなく、他とのつながりや分かりやすい例などにも熟慮しておく必要があると感じた。(2017年度)
- 数学をしっかり深いところまで勉強しようとする基礎知識はもちろん、それらを応用することも重要だと思った。いかに今までの勉強が浅い所までしかやっていないかが分かった。(2018年度)
- 数学の問題が解けるだけでなく、どうしてこうなるかを考える必要性を感じることができた。習っていないことを調べて考えていくことで、むずかしくても深く理解できた。(2018年度)
- 質問された内容は実際の授業でも生徒が疑問に思う点にも当てはまると思いました。(2019年度)
- 導出過程の重要性。授業前にする準備にかかる時間で授業のスムーズにできるかが決まる。(2019年度)

4. その他、感想など自由に書いてください。

(学生回答)

- 自らで授業することで記憶に残り、教科書を何度も読み込むことが出来たので良かったです。また友達の発表で自分にはない良い所を学び、少しは吸収することもできました！解析学の授業をとって、皆で様々な問題にふれることが出来て楽しかったです。(2017年度)
- 前回の復習が大事。1番ニガテな分野の集合だったので全体的な復習にはなった。(2017年度)
- 今まで習ってきたところも、問題を解くことができるだけでなく、考えて、勉強したいと思います。(2018年度)
- この授業の形は新しくとても楽しかったです。(2018年度)
- 自分が納得できても他人が納得できない説明はその内容の説明において何か不足していることがあることを学びました。(2019年度)
- 小、中学校でもこのように深く考える時間があってもよかったのではないかと感じました。(2019年度)

3. おわりに

この解析学Ⅱの講義は履修者が毎年少ないことから、ゼミ形式の講義が可能である。ただし、年度により履修者1名などの非常に人数が少ない場合は、学生同士のディスカッションができないことがある。逆に6名以上になると、1人当たりの発表をする回数に限られてしまい、講義前に詳しく調べるなどのゼミ形式の講義の本来の目的の経験が少なくなってしまうことがある。そのため、履修者の人数を把握したうえで、適切な形にする必要があると感じている。またこのゼミ形式の講義を通して、どの部分の理解が不足していたか、また理解しているとはどういう状態なのだろうかについて、学生本人が認識してもらうのを目的としている。そのために、筆者がどの程度の助言を入れたり、質問をしたりするかについて今後も慎重に行う必要があると考えている。その他に、通常の一斉形式の講義では、教授者は分かりやすく説明をしようとすることで学生たちはなんとなく分かった気になる、またはそうさせるような講義になりがちな点があると思われる。数学の内容理解のためには深く理解することが必要不可欠である。つまり、数学的事実一つ一つに対してそれがなぜ成り立つのか論理立てて説明できる必要がある。それが本来の数学における理解である。そのためにこのようなゼミ形式の講義を取り入れることは非常に有効であると感じた。ただし、一部の優秀な学生の発表では、スムーズに発表が進んでしまうことがあった。その場合には他の学生は深く理解することができず、なんとなく分かった気になった状態で止まってしまうことがある。そうならないように、他の学生へ筆者から質問などを投げかけ、深い理解を目指すように注意を払う必要があると感じた。

このゼミ形式の講義は、学生の満足度も非常に高かった。今後も学生たちの意見を生かしながら、ゼミ形式の講義運営の改善を図っていきたい。

4. 参考文献

- [1] 文部科学省 (2012), 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)」, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
- [2] 文部科学省 (2014), 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (諮問)」, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm
- [3] 市原 一裕, 芝野 雄大 (2010), 「大学数学における「わかる」の判断基準に関する研究 ―ゼミ形式の指導を通して―」, 教育実践総合センター研究紀要, 19 巻, pp.67-74

体験記

合格体験記

工学部 化学生命工学科

氏名 佐古 智香

【合格した自治体（校種・教科・受験形態）／私立学校（教科・任用形態）】

広島県（中学校・理科・一般）・鳥取県（中学校・理科・一般）

① いつから勉強した？また、どんな勉強から始めた？

3年生の年度当初から少しずつ始めました。（完全オンライン授業で時間があつたため）（図書館で期限が切れて無料配布されていた教職課程の雑誌に掲載されていた問題を1日1テーマずつ、「毎日やること」を目標にしていた）生物は高校で履修していないので、某塾の授業動画を参考にしていました。（アプリ等無料で利用できました）

3年生の夏くらいに、過去問集を購入し（年度を間違えて1年古いのを買いました。自治体のHPに最新のものが載っているの、傾向が大きく変わっていなければ、少々古い年度でも困らないと思います）、過去問を解きました。正直あまり解けませんでした。自分の苦手分野の把握、現状確認、出題傾向を知るためなので、これでOK（だと思います）。

3年生の間に授業と並行して勉強しようと計画していましたが、正直課題等に追われて難しかったです。そのため、教職関連の授業をとにかく真剣に。サークルで模擬授業、自分の苦手なこと（叱ること、話すことなど）を練習していました（教育基本法は穴埋めであれば答えられるように暗記しました）。

3年生の12月くらいから、出版社主催の教採対策模試を受験し始めました。（5月末まで、全5回＋自治体別模試2回分を思い切って申し込みました。勢いが大事。）本当は会場で受験したかったのですが、コロナ対策で全て自宅受験。地学分野が過去問の解説だけではわからなかったの、*「一人でできる高校地学」*みたいなタイトルの参考書を購入。豆知識みたいなのも多く、シンプルに面白かったです。わからないところが出てきたら、辞書のように使用して書き込んでいました。この時期くらいに、専門教養の問題集と教職教養の単語帳を購入しました（当該年度版が出るの結構遅いのかな？）。ただ、単語帳は最初に買ったものが、使いにくく、新しく買いなおしました（自分にあつたものを選ぶことが大事！評判より自分の感性を信じること）。

4年生になってからは、教員志望の子と面接対策、筆記対策を行っていました。出願の情報などを交換することができて、励みになりました！実習に向けて、買い出しや授業づくりなども行っていました。4、5月中には専門教養を一通り終えて実習前には志望自治体（併願も含める）の過去問を2～3周しました。実習に集中できるように実習前には教採の対策

を一通り済ませておいた方がよいと思います。

※出願はなるべく早めにしましょう！おそらくほとんどの自治体が出願順に受験番号を割り振っているため、早めに出願しておいた方が、2次試験の面接等で順番が早い？気がします。あと心の余裕もできます！

② あなたのオススメの教材は？

教員採用試験対策 ステップアップ問題集 専門教科 中学理科（東京アカデミー）

志望自治体過去問（鳥取県，広島県）（共同出版）

教職教養ランナー（一ツ橋書店）

教職課程，教職セミナー（雑誌）←近大図書館にあります。

種類を多く購入するより，同じものを何周もして確実に定着させる方がよいと思います。

③ とっておきの勉強法は？また，1日に何時間勉強していた？

いつまでに教材をやり切りたいのか逆算して一日の量を決めました。一日の量は午前中に終わる量くらいで考えること。継続することを念頭に自分がやり切れる量を決めることを大切にしていました。

④ 息抜きの方法は？くじけそうになったときは？

友達と話したり，食事に行ったりして，息抜きをしていました。メリハリが大切！クイズが好きなので，息抜きがてら一般教養を解いたりしていました。

くじけそうになった時は，初心に帰っていました。なぜ教員になりたいのか？教員になって何をしたいのか？教員になりたいと思ったきっかけを思い出すことでモチベーションを維持できると思います。

⑤ どの自治体／私立学校を受験した？

広島県（中学校・理科・一般）・鳥取県（中学校・理科・一般）

※私立は未受験です。

⑥ ⑤を踏まえて，それぞれの自治体／私立の面接や筆記（専門含む）をどのように対策していた？

3年生の夏くらいに，過去問を一周やってみて，どの対策が必要なのか，自分の苦手な分野は何か把握しました。その後は，教採対策用の問題集，模試を解き，一周したらもう一度同じ過去問を解きました。試験直前にはこれまで受けた模試の直し，解き直しを中心に対策していました。

3年の夏に解いたときに間違えた箇所に印をつけ，正答率も記録しておくこと，伸びや自分の苦手分野を把握しやすいのでおすすめです。

⑦ 授業（ゼミも含む）や就活、教員採用試験の兼ね合いは？

年明け～春休みは5社までと決めて就活を勉強と並行してやっていました。履歴書の書き方、面接の受け答えなどの練習になりました。（面接に苦手意識があったので、面接を練習したいと思い就活をしました。）結果的に、学生時代頑張ったこと、大学での研究内容、自己PRなど面接で聞かれることが被っていた内容もあったので、就活をして良かったです。

⑧ アルバイトやボランティアはどうしていた？

アルバイト：アルバイト先が学習塾だったこともあり、教育実習中以外はいつも通り出勤していました。（週2～3日）

ボランティア：1年生のうちからクリーンライフボランティアサークルを通じて積極的に参加していました。高屋西地域センターで行われるボランティアでは懇意にさせていただき、学生主催で小さなお祭りで企画運営を経験させていただけたことが、4年間で一番大きな経験でした。

⑨ 大学生生活の中でやっておいた方がいいことは？

自分がやってみてみたいと思ったこと、興味を持ったことすべてです。どんなことであれ、経験することが自分の財産になると思います。「百聞は一見に如かず」という言葉があるように、自分が経験したことは、話す時にリアリティが違います。

もし、何にも興味が持てない、興味の幅を増やしたいという場合にはぜひ図書館に行ってください。たくさん本を読んでみてください。何百冊という本が好きなだけ無料で読める空間はそうありません。

⑩ 教職ラボの活用法は？

教職ラボには、教採対策の過去問・問題集、技術の実技対策の道具や同じ志を抱いた仲間がいます。模擬授業で切磋琢磨したり、教採対策の情報交換をしたりなど、あなたのしたいことをまさに実験室のように活用してほしいです。

⑪ 夢に突き進んでいく後輩たちへメッセージ！！

長いようであつという間の4年間でした。「コロナ禍で…」とできないこともあるかもしれませんが、「コロナ禍だから」できたこともあるはずです。（そうじゃないと悔しいので）目の前の現状にうなだれず、別の道はないか？と常に考える姿勢を大切にしてください。学業、遊び、アルバイトなどあらゆることに対して、好奇心を忘れず楽しんでください！応援しています。



合格体験記



工学部 化学生命工学科

氏名 渡邊 真理子

【合格した自治体（校種・教科・受験形態）／私立学校（教科・任用形態）】

兵庫県(中学校・理科・一般選考)

① いつから勉強した？また、どんな勉強から始めた？

単発的に3年生の間に教員採用試験の模試を3回ほど受けました。(オンライン)
本格的には4年生から勉強し、専門教養(理科)の勉強から始めました。

私は過去問を曖昧にしたことにとっても後悔しているので、自分の苦手や自治体の傾向を掴むためにも、教材を購入する前に何回も過去問を解いて欲しいです。

② あなたのオススメの教材は？

各自治体の過去問，専門教科のための問題集，教員採用試験 36 日間 2021，
教員採用試験 15 日間 2021，協同出版の模試

過去問を2・3回解いて自分のどこを伸ばせば一番点数が上がるのか知ってから問題集を購入するべきでした。

③ とっておきの勉強法は？また、1日に何時間勉強していた？

正直計画性はなく、勉強していない日もありました。

多い日は1日中場所を変えながら勉強していました。

④ 息抜きの方法は？くじけそうになったときは？

卒業研究に没頭したり，研究室の仲間と過ごして息抜きしていました。

教員採用試験を受験する仲間が少ないため，同士と相談することでやる気を保っていました。

⑤ どの自治体／私立学校を受験した？

兵庫県のみ

⑥ ⑤を踏まえて，それぞれの自治体／私立の面接や筆記（専門含む）をどのように対策していた？

〈一次試験〉

- ・集団討論...事前に与えられたテーマから自分の考えをまとめ、要項にある必要とする人材欄を熟読しました。試験というよりも新しい知識や考え方を学ぶ気持ちで臨みました。
- ・筆記試験...模試から点数を取る問題と捨てる問題を作っていました。勉強を始める時期が遅かったので、何日でマスターできるという問題集に頼っていました。

〈二次試験〉

- ・模擬授業、面接...受験する友達と入退室から何回も練習しました。自信にもつながり、背伸びをしていない、ありのままの自分を知ってもらおう気持ちで臨みました。

⑦ 授業（ゼミも含む）や就活、教員採用試験の兼ね合いは？

ゼミは教員採用試験対策をしていいよと言われていましたが、研究を怠ってはいけない雰囲気があったので勉強の息抜きに研究をしていました。就活は全くしていません。

⑧ アルバイトやボランティアはどうしていた？

1年生の秋から1年間ほどスーパーの品出しを、4年生の11月から2月まで塾のバイトをしていました。

ボランティアは化学生命工学科の工学会に所属し行っていました。

⑨ 大学生活の中でやっておいた方がいいことは？

たくさんの人と関わることだと思います。新しい環境に勇気を持って飛び込み、いろんな考え方を知って視野を広く持つことが大切だと思います。

⑩ 教職ラボの活用法は？

教職を目指す仲間の繋がりができるので、悩み相談や情報収集がしやすいです。また、自分が模擬授業をしたいときにいつでも仲間を集い鋭いアドバイスをもらえるので、いい刺激になりました。

⑪ 夢に突き進んでいく後輩たちへメッセージ！！

私は教員採用試験にとっても後悔しています。知識も意識も100%の準備をして挑んでいないからです。後輩の皆さんには私のようにはなって欲しくありません！

最後まで私が走り続けることができたのは、引っ張ってくれる仲間がいたからです。教員採用試験対策で一番大切なことは、一人で取り組まないことだと思います。

もちろん息抜きも大切なので、大学生活を充実させながら自分のペースで乗り切ってください！！応援しています。

「教師の使命と生涯学習」

渡邊 真理子

(化学生命工学科 4 年)

この教育実習で、沢山の人の支えに気づくことができ、常に感謝の気持ちを忘れず私自身も誰かを支える存在でありたいと感じた。お世話になった実習校は、小中一貫教育推進モデル校として様々な取り組みを行う学校だった。初日から、私がお世話になる 7 年 1 組担任、理科の指導教員の先生が体調不良で 1 か月欠席することになってしまい、沢山の先生方が教務の負担が増える中手厚くご指導して下さった。一人の先生に頼れる環境ではなかったため、積極的に関わり一人で抱え込まず相談する勇気や姿勢が身についた。

7 年 1 組の生徒は何事にも一生懸命で暖かく、担任がいない中でも一つの目標に向かって声を掛け合い、私はその姿に元気ももらっていた。授業実習は、研究授業を含め道徳 1 授業、理科合計 4 単元 12 授業を行い、理科の単元は「動物の分類」を担当した。具体的なイメージをつかむことができるよう Web から画像や動画を多く掲示し工夫したが、教師からの一方通行な授業になってしまい生徒自身が課題を見つけ解決する授業ができず、締めくり方も中途半端で腑に落ちないまま終わってしまった。反省会で教科を指導して下さった先生に「ワークシートの振り返り欄に生徒が何を書いていたら正解やったん？」と聞かれ答えられなかった。授業を終えて生徒がどのようになって欲しいかを、実際に自分でワークシートへ記入する等明確化することで、何に焦点を当てて授業を構成したら良いのか分かるとご指導頂いた。また、Web の画像や動画でも生徒の興味は引けるが、自分自身の経験から話をした方が印象に残るとアドバイスも頂き、週末に散歩をして出会った動物を撮影したり、アサリやエビの解剖動画を作成したりと自分自身で行動する努力をしてみた。Web の画像や動画に比べて画質が悪い資料だったが、以前よりも生徒全員が興味を持って注目し反響も大きかった。実際の現場でも、他校の教員同士で放課後理科教室を開講しお互いの経験を共有して生徒を引き付ける実験や教材研究をされていると知った。

さらに、小学部の体育の先生が行う研究授業と事後研修に参加することができ、常に高みを目指しお互いに感化されながら切磋琢磨される先生方の姿を目の前で見た。教師になってからも学び続け経験を積む大切さを肌で感じ、生徒にも学ぶことの楽しさや面白さを伝えられる教師になりたいと強く思った。私は、教師が同じ授業を何回もしているという考えが無く、想像していたよりも授業準備が少なく済むと感じていたが、先生方は繰り返し同じことをするのではなく常に教材研究をし続け、時代と共に変化し向上していこうとする姿勢に感動した。特に理科は、教科書に沿った授業から視野を広げて発展的な授業まで様々なスタイルで行うことができる。自分自身の経験や知識は授業を楽しく面白くする要素に直結しているので、学ぶ機会を掴み取り様々なことに挑戦することが大切であると感じた。今後は、些細なことでも授業のタネになるかもしれないので、画像や動画で記録し将来に活かしていきたい。

教育実習報告書

大西 芽衣
(化学生命工学科4年)

長いものだと思っていた教育実習も、終えてみるとあっという間だった。初めは教師という職業に関して、大変でしんどいイメージをもっていた。もちろん実習を通して教員の方々の業務の多さや、生徒対応、日々の授業準備など近くで見れば見るほど仕事量の多さに驚いた。同じように過ごしてみることで、少しではあるが教員の仕事や大変さを感じることができた。しかし、教員という職業は大変なこともあるが、それと同時にやりがいや楽しさなど魅力に溢れていることにこの実習で気が付くことができた。

初めは生徒との会話の入り口や、どう話すことで心を開いてくれるのか悩んでいた。教員の方々は生徒にいつも寄り添い、また生徒も楽しそうに教員の方と話している姿を見て信頼されているのだと感じた。私はありのままの自分で積極的に声をかけ、日々の生活の話を生徒から聞くことで、実習日数が経過するにつれ、生徒から「先生！」と話しかけてくれるようになった。生徒からの一言や生徒と関わる時間がこんなにも嬉しいものだということが実習を経たからこそ知ることができた。また、観察実習では教員それぞれに良さがある授業を拝見することができ、いいところを活かせるような授業を考えることも楽しく感じられた。生徒がわかりやすく、先生の授業だから受けたいと思ってくれる授業作りを目指して頑張ってきた。生徒主体の授業にしたいと思い、発言する機会や生徒が活動する時間を多く作れるような授業作成を行った。生物は暗記が多いため、退屈させない工夫としてカードを使った。ペアワークをさせることで興味をもたせると同時に、覚えようという生徒の積極性を実らせるようにした。実際に授業を行うと生徒の反応が良く、楽しそうに活動しながらも生物の知識を覚えてくれていた。その他の授業でも生徒の発言する機会を作るために話し合いの時間を多く作れるように工夫した。しかし、実際に授業を行うと上手くいく所と改善が必要になってくる所が顕著に現れた。生徒の書くスピードが思ったより遅かったり、発問の内容が難しかったりと、生徒相手に授業を行って初めて気が付くことばかりだった。指導教諭の方から何度もご指導して頂いたことで、回を重ねるごとにいい授業になったと言ってもらえるようになった。早口になってしまうことや、考えさせる時間が少ないなど、何度授業を行っても難しいことは多く、日々努力し、生徒と向き合っていくことで改善していくことが大事だと分かった。私にとっては拙い授業であっても生徒にとっては教師であることを忘れずに全てにおいて全力で頑張った。そのお陰か、生徒から分かりやすかった、先生の授業をもっと受けたいと言ってもらえた。その言葉をかけられた時、しんどかった準備も苦労も意味があったのだと感じ、教員の方々はこの幸せをやりがいとして励んでおられるのかと思った。また、教員という立場になって初めて、先生方の苦労や生徒に対する思いを知ることができ、今までお世話になった先生方へ改めて感謝の気持ちで一杯になった実習であった。

憧れる教師の姿

相原 未来
(建築学科4年)

はじめて私が「教師になりたい」と宣言した母校に2週間、教育実習をさせていただきました。不安や緊張に押しつぶされそうだったのも一瞬でそんな場合じゃなくなりました。大学の授業では勉強できないこと、高校生のときに感じなかった教師の一面、現場ではそれがいっきに伝わってくる光景があり圧倒され、1分でも時間を無駄にするなんて“もったいない”という姿勢で学ばせていただきました。そのくらい貴重な2週間でした。

私は建築2年生のクラス、その中でも構造設計という教科を担当しました。この授業は建築設計における図式解法や算式解法が中心で、計算の手順を学ばせるものでした。図や線などを多く使いますが、生徒と一緒に確認しながら計算を進ませるために板書を基本とした授業に計画しました。板書は丁寧に見やすく心がけることが出来ましたが書く量が多い分、生徒への説明との区切りが曖昧になり“しっかり生徒の方を向いて話す”ことが難しかったです。教師にとって目線は、何を勉強しているかを生徒に伝えるためにも、また生徒が理解できているか確認するためにも授業における重要なコミュニケーションになっていることが良くわかりました。

教育実習において得たもの、それは職業観でした。確かに私は教師になりたいという信念を確実に持ちながら今まで勉強してきましたが、この教育実習で刺激をもらいそれがさらに具体的かつ現実的に見据えることができました。職業としての教師のリアルな現状とは生徒との間だけに生まれるのではなく教師同士や保護者、自分の心との間でも大切な課題であることを考えることができました。長先生の言葉である「今日教えたことが身になって明日はそうはいかない、なぜなら生徒も教師も気持ちやモチベーションが日々違うから。人が人を育てる仕事なんだから」という教師の正解のない面白さまたそれが難しくもあることを感じました。

教師としての使命はそれぞれ感じる部分が違うと思います。生徒を想った授業それはもちろんですが私は生徒から見えてない教師の姿にその使命を感じました。生徒では中々触れることの出来ない職員室の世界、昨日のテレビの話でもしていると思っていた高校生の私のイメージは壊され「この生徒は」「あの生徒の気持ちは」「その為には」と教師同士で生徒についての相談が飛び交い、全ての教師が生徒のことで頭がいっぱいでした。私はその空間に感動し、そんな生徒から見えてない教師の姿に憧れを強く抱きました。

私は本当に素晴らしい経験をさせてもらいました。「絶対に教師になる」と毎日強く想いました。その為にアサーション能力の改善や自分が教師になったときのこだわりなどを勉強していき、また生徒に「先生」と呼ばれる未来を目標に日々努力していこうとおもいます。

資料

令和3年度 教職課程行事報告

【学内説明会】

日時	時間	場所	対象	項目	内容
3月31日(水)	①13:00～14:00 ②14:00～15:00	近畿大学工学部 C305	2～4年	教職課程説明会	教職課程について
4月1日(木)	10:30～11:30	近畿大学工学部 C305	1年	教職課程説明会	教職課程について
4月19日(月)	12:20～13:00	—	介護等体験 希望3年	令和3年度介護 等体験説明会	介護等体験の代替措置 について
4月26日(月)	12:20～13:00	—	4年	令和3年度教育 実習事前説明会	教育実習における注意 事項
5月10日(月)	12:20～13:00	—	3年	令和4年度教育 実習申込説明会	教育実習実施までの手 続き、教育実習申込みと 内諾について
10月15日(金)	12:20～13:00	—	4年	教育職員免許状 申請手続き説明 会	免許状授与申請につい て
12月4日(土)	9:00～12:10	近畿大学工学部 C209	3・4年	教育実習報告会	令和3年度教育実習報 告
12月10日(金)	12:20～13:00	—	2年	令和4年度介護 等体験申込説明 会	介護等体験の説明と申 込について

【学外での活動】

日時	場所	内容	
5月下旬～11月上旬		教育実習	コロナ禍のため教育実習現場指 導実施なし

【教職課程運営委員会】

日時	内容
10月11日(月)	教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の改正について
10月26日(火)～27日(水) ※メール審議	令和4年度開設科目(ICT事項科目)の科目名称について
11月2日(火)～6日(土) ※メール審議	令和4年度教職科目の科目名称変更について・工学部教職課程運営委員会規程の改正について・工学部教育実習履修資格内規の改正について
12月16日(木)	令和4年度からの栽培・同実習の履修について・教職課程自己点検評価について 履修カルテの電子化について
1月25日(火)～27日(木) ※メール審議	令和4年度教職課程変更届について
3月4日(金)	工学部教育実習履修資格内規の改正について・令和4年度教職課程スケジュールにつ いて・令和4年度教育実習参加者について・ICTを活用した授業実施のための機器購入 について

令和3年度 教職課程受講者数

(単位：人)

学科	学年		1年生	2年生	3年生	4年生	計
化学生命工学科		実人数	19	10	5	7	41
	内訳	理科(中)	10	6	4	6	26
		理科(高)	17	5	5	6	33
		技術	2	1	0	0	3
		工業	2	1	0	0	3
機械工学科		実人数	2	2	3	0	7
	内訳	技術	2	1	3	0	6
		工業	2	2	3	0	7
情報学科		実人数	2	2	3	0	7
	内訳	技術	0	1	0	0	1
		工業	0	1	0	0	1
		情報	2	2	3	0	7
建築学科		実人数	1	2	1	3	7
	内訳	技術	0	0	1	0	1
		工業	1	2	1	3	7
電子情報工学科		実人数	19	9	4	4	36
	内訳	数学(中)	8	8	3	3	22
		数学(高)	8	8	2	3	21
		技術	1	0	0	1	2
		工業	3	0	0	0	3
		情報	3	1	1	0	5
ロボティクス学科		実人数	5	9	6	2	22
	内訳	数学(中)	3	6	4	1	13
		数学(高)	4	6	4	1	15
		技術	0	0	3	1	4
		工業	0	1	2	0	3
合計	実人数	48	34	22	16	120	

令和3年度 教育実習・介護等体験参加者数

【介護等体験】

特別支援教育総合研究所の印刷教材2科目（視覚障害児の教育課程及び指導法／聴覚障害児の教育課程及び指導法）を受講する代替え措置にて実施

(単位：人)

学科	聴覚障害児の教育課程と指導法	視覚障害児の教育課程と指導法	合計
化学生命工学科	3	1	4
機械工学科	1	2	3
情報学科	0	0	0
建築学科	1	0	1
電子情報工学科	0	3	3
ロボティクス学科	1	3	4
合計	6	9	15

【教育実習】

(単位：人)

学科	中学校	高等学校	中高一貫校	計
化学生命工学科	4	2	1	7
機械工学科	0	0	0	0
情報学科	0	0	0	0
建築学科	0	3	0	3
電子情報工学科	4	0	0	4
ロボティクス学科	2	0	0	2
合計	10	5	1	16

令和3年度 免許取得者数・教員就職者数

【一括申請による教員免許状取得状況】

(数字は取得人数)

学科 教科・種類		学科						合計
		化学生命工 学科	機械工学科	情報学科	建築学科	電子情報工 学科	ロボティクス 学科	
数学	中学	0	0	0	0	2	1	3
	高校	0	0	0	0	2	1	3
理科	中学	7	0	0	0	0	0	7
	高校	7	0	0	0	0	0	7
技術	中学	0	0	0	0	1	0	2
情報	高校	0	0	0	0	0	0	0
工業	高校	0	0	0	3	0	0	3
合計	中学	7	0	0	0	3	1	11
	高校	7	0	0	3	2	1	13

【教員採用試験合格者・教員就職者数】

(既卒者は含まない)

学科 教科・種類		学科						合計	
		化学生命工 工学科	機械工学科	情報学科	建築学科	電子情報工 工学科	ロボティクス 学科		
数学	中学	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0
	高校	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0
理科	中学	教採合格	2	0	0	0	0	0	2
		教員就職	2	0	0	0	0	0	2
	高校	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0
技術	中学	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0
情報	高校	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0
工業	高校	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0
	中学	教採合格	2	0	0	0	0	0	2
		教員就職	2	0	0	0	0	0	2
	高校	教採合格	0	0	0	0	0	0	0
		教員就職	0	0	0	0	0	0	0

お知らせ

教職ラボ同好会

→教員を志す近畿大学工学部学生のサークル

活動風景

人前に立つのは苦手…。
でも、はきはき喋れるようになりたい



入会動機は
人それぞれ！

興味はあるけど…。
よくわからないなあ



地域のイベントに学生ボランティアとして
参加することも！



活動内容

- ・朗読リレー
- ・自己分析
- ・板書練習
- ・問題解説
- ・模擬授業
- ・教採対策演習
- ・OB講演会
- ・面接練習
- ・議論

それぞれの
強みを伸ばし、
弱点は克服
できるよう
自分たちで考案！

etc…

2023年度活動日

土曜日 11:40-13:40

※感染症対策のためZoomでの活動も実施します

連絡先：kyoushokulabo.kindai@gmail.com 電子情報工学科 3年 山内 まで！

令和5年3月3日 発行

近畿大学工学部教職課程年報 Vol.9

編集兼発行者 近 畿 大 学 工 学 部

〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺1番

電話 (082)434-7006

Published by: Faculty of Engineering,
Kindai University

Address: 1 Takayaumenobe, Higashihiroshima
Hiroshima 739-2116, Japan
Tel. (082)434-7006

9 Annual Report

2022 Vol.9

CONTENTS

■ Research Reports	3
■ Notes of the practical experience	11
■ Reports	21
■ Information	27

The Teacher Training Course
in Faculty of Engineering, Kindai University